

現地研修報告

黒田官兵衛を巡る

黒田官兵衛ゆかりの地ウオーク(二)

吉田 勝 重

(会員 佐伯市女島)

中津城に帰って来た私たちは、昼食後の一時を利用して城内を巡った。城内には奥平神社を初め、中津神社、城

井神社、扇城神社などの神社が祀られている。

中津城天守閣前にある奥平神社は、六十二代村上天皇の王子、具平親王の後裔である奥平昌成が享保二年に五穀豊穡、豊前一円の守護神として祀ったものである。

中津神社は、明治十四

奥平神社



年に伊勢神宮の御分霊を奉迎鎮祭したものである。

(五) 城井神社



城井神社—宇都宮鎮房を祀る

城井神社は城井谷城主、宇都宮鎮房しげふさを祀る神社である。宇都宮一族は、十六代鎮房に至るまで約四百年の間豊前国主として君臨してきた。天正十五年（一五八七）豊臣秀吉の九州平定にあたり、秀吉は黒田長政に豊前六郡を、毛利勝信に二郡を与え、宇都宮鎮房には今治に領地替えする朱印状を出す。宇都宮鎮房は累代の墳墓ふんぼの地の安堵あんどを願ひ、この朱印状を返上、黒田氏と対立する事になる。秀吉と長政は謀を巡らせ、所領安堵を条件に長政と宇都宮鎮房の息女、千代姫（鶴姫）との婚を約し和睦。鎮房は天正十六年（一五八八）四月二十日中津城に招かれ城中にて討ち取られた。

天正十九年（一五九二）長政は鎮房の霊を城内に城井大明神として祀った。寶永二年（一七〇五）小笠原長円ながのゑが小社を建て城井大権現として崇める。

この城井神社の右側に、扇城神社がある。

(六) 扇城神社

天正十六年四月二十日、宇都宮鎮房とともに中津城にやって来た従臣四十五名は、鎮房の庶子空譽上人（静の方との間に生まれた子）の合元寺に留め置かれた。



鎮房の謀殺を知り城中に馳せ入り戦ったがごとくとく討ち死にした。小姓松田小吉は京町筋で、野田新助、吉岡八大夫は広運寺にて追腹、二士は合元寺の庫裡で、其外はいずれも城より遁れたものの途中で討たれたという。謀殺

後、松田小吉は小吉稲荷として京町に、野田、吉岡は広運寺に、その他の者はこの扇城神社のある城内乾いぬいの地に埋葬された。のち小笠原長円がこれらの従臣をまとめ城井神社に合祀したという。

扇城神社の御祭神として、この時討ち死にした四十五名の名前が奉納されている。

〈扇城神社御祭神〉

・渡邊右京進(家老)・渡邊與十郎・松田左馬助・松田小吉・松田彦岐守、遠藤伊賀守、遠藤源兵衛、石井清左衛門中野治郎兵衛、都留與左衛門、岩戸見宮権大官司右衛門大夫、野田新助、小袋大内臈、薄井藤内、則松和泉守房長、白井遠江守、屋那治求馬、榎本新左衛門、松本五郎兵衛、神崎三郎兵衛、納祖紀五郎、中野勘太夫、加來左内、遠藤新次郎、安廣権太夫、遠藤吉兵衛、永沼久左工門、長野三左工門、星野惣太夫、安藤甚之丞、垣内藤兵衛、寒田源右衛門、亘玄蕃、齋藤駿河、横山半太夫、田邊休意、垣内平五郎、岩屋平左衛門、鳶巢安左衛門、矢箱作左工門、赤染近江守、吉田八太夫、白川三郎兵衛、峰屋郡司、椋本五郎兵衛の四十五柱。

この宇都宮鎮房の事件後はどうなったか。

数日後、長政は城井谷に兵を向け鎮房の父長甫を始め一族を攻め滅ぼした。長政の妻となった千代姫は一族の女人十三名とともに広津河原で磔にされ、宇賀神社に祀られた。嫡子朝房は黒田如水と九州平定に出ているが、肥後玉名木ノ葉で殺され宇都宮神社として祀られている。こ

れにより約四百年続いた中世武士団宇都宮家は滅亡した。

この宇都宮一族と黒田如水・長政の戦いは、新たに入植した黒田氏と従前の在地一族との戦いである。

宇都宮一族の墓所は、宇都宮氏の菩提寺である月光山天徳寺(福岡県築城町本庄)にある。この寺は正慶年間(一三三二)に五代頼房が創建した曹洞宗の寺で、寺内には十七代長甫、十八代鎮房、十九代朝房三代の供養墓がある。本尊は釈迦如来で寺宝には前九年の役(一〇五三)の功績で、御冷泉天皇より下賜されたと伝えられる金銅三足葵香炉が伝えられている。

史跡としては数多くの城跡がある。野中重房の長岩城址、中間氏の居城一ツ戸城城址、平田掃部介の平田城、鎮房が立て籠もった城井谷の城井ノ上城址などたくさんある。大河ドラマ「黒田官兵衛」の影響で補修修理され自由に行けるようになった。

そのうちの一つ、平田城を紹介しよう。

(七) 平田城址

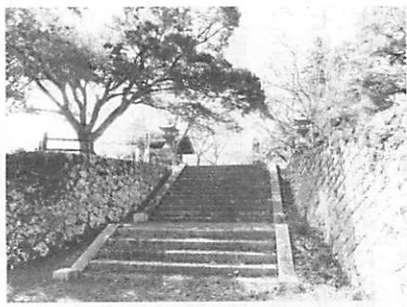
平田城は別名白米城まねびとも言い、建久年間に長岩城主、野仲重房が築城したといわれる城で、天正年間平田掃部介が城番として居城した。



平田掃部介が城番をしていた平田城址（南台）

天正十五年（一五八七）黒田官兵衛が豊前六郡を拝領入国すると、野仲鎮兼がこれに反抗し長石城に籠もった。黒田勢は、長石城を攻め落としその時活躍した家来の栗山備後守利安（栗山四郎右衛門利安）に野仲氏の旧領六千石を与えた。

栗山備後守利安は黒田家の家老として活躍、如水の懐刀であった。利安はこの平田城を改修し統治したと言われている。この時改修された石垣の一部が、当時のままに残されている。



▶平田城中央部虎口（南台）

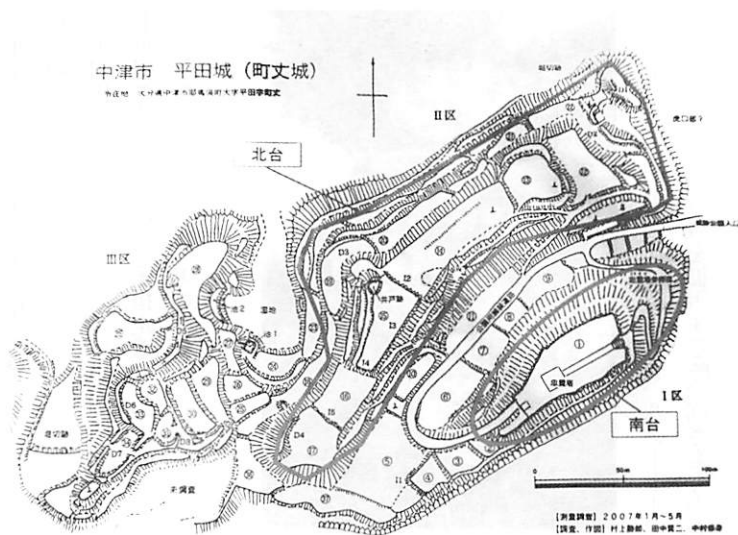


◀平田城北側の石垣（南台）

この平田城は中津市耶馬溪町大字平田にあり、平田集落を見下ろす高さ一一七メートルの台地の端にある。浅い谷を隔てて南北に区切られ、南台に当時の石垣が残



平田城の南側石垣（南台）



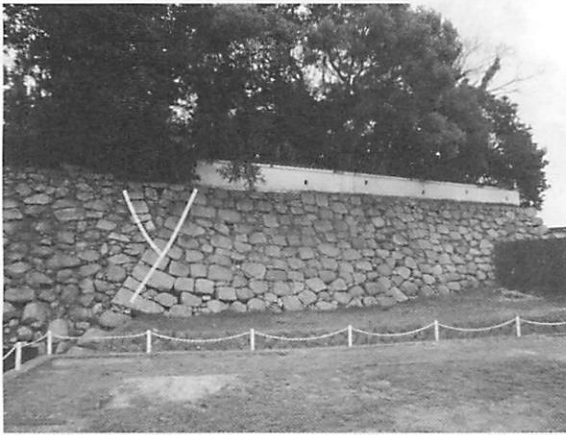
栗山利安が中世の山城を石垣の城に改修—南台・北台の図

されている。北台には複数の曲輪跡と石垣が残されている。

私たちは二つの神社を訪問した後、城内の他の遺跡等を見学した。

(八) 中津城の石垣

中津城は黒田如水・長政と後に入国する細川氏によって築かれた。その境はY字型の部分で区別できる。



y字型の右側が黒田氏の築いた天守で、左側が細川氏の築いた部分。黒田氏の石垣はきちんとした方形をしている。

天正十八年の築城当時の石垣には未加工の自然石が使われるのが普通である。

黒田氏が使用した石垣の石は、福岡県上毛郡にあった七世紀の遺跡唐原山城(国指定遺跡)から持ち出された物であった。周りが四角に切り落とされ、角にL字状の窪みがある。



L字状の窪みのある石垣
(唐原山遺跡からの石垣の石)

石垣の高さも、黒田氏の時代は五、八メートルであった。細川氏の時城を拡張する際、高さも今の七メートルと高くしたそうです。

その遺構は、各地の石垣の境界に見ることができ。その石垣の違いを比べてみてほしい。

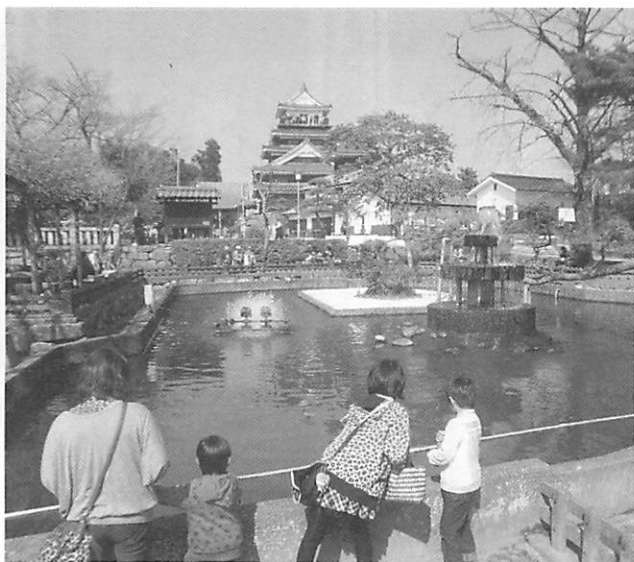


この中津城の本丸よりの堀に「中津祇園の山車」に使用するタイヤが沈められている。中津祇園は正徳二年（一七一二）当時の藩主小笠原長円の病氣快復を願って、山車の練りが行われるようになったという。一年に一回、そのタイヤを掘の中から取り出し使用する。

本丸の中には細川三齋が造ったという三齋池が残されている。

三齋池は豊前一国と国東・速見を領主となった細川忠

興が城内の用水不足を補うために造った水道工事のための池である。観賞用や防火用水として使われていた。



細川忠興が造らせた三齋池（現在は三齋公園）

中津城にはこの他に西南戦争の時蹶起した中津隊の碑や中津市出身の偉人の碑などがある。